



発行所
 カトリック福江教会
 広報委員会
 五島市末広町3-6
 ☎ 0959 (72) 3957
 ●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

フランシスコ教皇来崎

記念ミサに福江教会より約一九〇名参列



© 2019 カトリック中央協議会

十一月二四日(日)午後一時より、長崎県宮野球場(ビッグNスタジアム)にてフランシスコ教皇による記念ミサが行われた。この日、朝から強い雨が降りしきる中、教皇様は東京から専用機で長崎に入り、午前中

は爆心地公園を訪問し、核兵器廃絶のメッセージを述べられた後、西坂公園の二十六聖人殉教地を訪れ殉教者へ祈りを捧げた。時折雷の鳴る荒れた天気も、昼過ぎには雨も止み強い日差しが照りつける好天となった。

スタジアムには全国各地の信徒、海外からの巡礼団など約三万人が参列。福江教会からは、信徒約一五〇名とシスター約四〇名の約一九〇名が参加。一塁側の内野スタンド付近の指定エリアにて開催を待った。また、福江小教区から救護スタッフとして医師、看護師、介護士の信徒やシスター方が多数参加していた。

午後一時半過ぎ、アナウンスの直後に教皇様が専用車で入場されると、会場内から一斉に大歓声が上がります。来場者は小旗を振ったり、拍手

をしたり、写真を撮ったりと歓喜して出迎えた。教皇様は場内を回遊し、手を振って歓声に応えられた。

続いて行われたごミサで教皇様は「長崎はその魂に、癒しがたい傷を負っています。その傷は、多くの罪なき者の、筆舌に尽くしがたい苦しみによるしるしです。」と、被爆地長崎への慰めを表された。続いて「今ここで、一つの祈りとして、私たちも声を上げましょう。今日、この恐ろしい罪を、身をもって苦しんでいるすべての人のために。そして、あの悔い改めた盗人のように、黙りも嘲笑もせず、むしろ、自ら声を上げ、真理と正義、聖性と恵み、愛と平和のみ国を告げ知らせる者が、もっともっと増えるように願いましょう。」と長崎の信徒だからこそ出来る、核なき世界の実現と戦争のない平和な世界への祈りと行動を続けるよう希望を示された。

感動と興奮の中で行われたミサも



© 2019 カトリック中央協議会



© 2019 カトリック中央協議会

終わりを迎え、教皇様は次の訪問地である広島へ向かわれた。帰りの五島行きのフェリーは、夕方の通常便の後に特別便が用意された。船内では、心地よい疲れの中で多くの信徒たちが口々にミサの感想を語り合う様子が見られた。

今回のフランシスコ教皇の長崎訪問にあたり、記念ミサを初め、爆心地公園や西坂公園の殉教地訪問など過密なスケジュールを取り仕切って下さった、実行委員長の中村満神父様の素晴らしい働きに、福江教会の信徒として誇らしく思うとともに、多大なる慰労と感謝を感じながら帰路についた。

Viva Papa!!

フランシスコ教皇記念ミサ
感動のメッセージ

Part 1

教皇ミサに参加した信徒の皆さんへ、感想を募ったところたくさんメッセージをいただきました。ありがとうございます。今号と次号の二回に分けて掲載いたします。

○待ちに待ったパパ様の来崎、よるこびいっぱい迎えた十一月二四日、予定通り雨となった。がっかりもしたけれども、お祈りは天気を下さいと祈り続けた。手荷物検査を受けるまでにずぶぬれとなり、少々心配もした。ただ途中から雨は止み、青空が広がり太陽も見えてきた。やはり神様は私たちの願いを聞いて下さったのだと感謝。

待ち時間は長かったけれども、(球場内ビジョンの)放映のおかげで退屈することなく過ごせた。定刻に、オープンカーでパパ様のご入場、総出立上がり「パパ」「パパ」の叫び、大拍手、小旗のひらめき、会場は大熱狂。天まで届いたかと思った程に。ご高齢なのに終始笑顔でみんなに答えて下さる姿に、エス様の姿を重ね合わせながら、感謝の御ミサに与った。パパ様、

来日ありがとうございます。心からの感謝です。(参加した者の一人)

○信仰は、神のことば 教皇様のミサに与って。全世界の全てのいのちを守るため、これからの未来は若者たちが、主キリストの御言葉をとおして、お祈り 愛と心をもって信仰を伝え、守るように。お祈りいたします。

○教皇様来日のミサに参列するに当たり、ゆるしの秘跡を受け、体調管理にも気をつけていたつもりなのに、二日前から原因不明の脚の痛みに悩まされる事になりました。五島出発の前夜には片足は通常の1.5倍に腫れ上がり、当日は両足に及びました。何故この時に!と思いましたが、行くのを止める友人もいましたが、行く

のを諦める事は出来ませんでした。実際にお姿を見、直接お話を聞いた時、その言葉は心の奥深くまで届き鼓動となるのを感じました。"We protect all life with the power of love."の意味を噛み締め、私が生きていくこの小さな世界の中で、触れ合う人々の中にキリストの御顔を見、声に耳を傾け、ただ寄り添うだけでも良いから、「私が愛したように、あなた達も愛し合いなさい」とのみ言葉を生きて行きたいとの志を新たにしました。損に見える行為も、己を律して臨む事、それが私の信仰宣言の手段であると思えました。また祈る理由を持つるとは一つの幸せでもあると思えました。



© 2019 カトリック中央協議会

五島に戻った翌日には嘘のように脚の腫れもひき歩けるようになりました。偶然とはいえ、捧げ物が足りない私に神様が課したものであったかもしれないと勝手に思っています。多くの人が様々な思いを抱いて、あの場所に集まったと思います。同じ時を共有出来た事を本当に幸せに思います。これからの日々、今のこの気持ち忘れず糧として行きたいと思えます。(Mary510)

○「あなたに話がある」と書かれたポスターを見て、パパ様は私に何を話したいのだろうか?と期待しながら参加しました。パパ様は三カ所でたくさんのお話を話されましたが、爆心地公園で雨に濡れながら花をたむけ、祈る姿、西坂で聖人達とともに祈る姿、ビッグNで歓迎する人たちに祝福を与える姿。高齢なのはるばる日本へと来られ、ハードスケジュールで予定をこなしていく姿、いろいろな姿が様々な事を語っているように思えました。

IT化が進み、いつでもどこでも、その姿を見ることが出来ますが、その場所に居ることで実感を味わえたいし、そして、私自身にも同じように「すべての命を守るため」「行動しなさい」と語っているように感じました。神に感謝!

○一日雨の予報が出てたのにミサが始まる前にはうそのように青空。皆が教皇様を待ち望む気持ちが一つになり快晴になりました。いざ教皇様を目にした時、自然と涙がこぼれ胸が熱くなりました。本当に会えてうれしかったです。(Y・T)

○ローマ教皇フランシスコの訪問を受け長崎でのゴミサにあずかった際には、感激の涙が出ました。核兵器のない世界は可能であり、必要であると確信していると平和を望んでいる私たちも神様を信じて祈っていると思います。教皇様の訪問を計画してくださった神父様方に感謝申し上げます。

○ハードスケジュールの中、パパ様はイエス様のいづくしみを私に、日本に、長崎に、全世界にもたらされました。パパ様のあたたかいぬくもりは、今も胸に広がります。パパ様を先頭にいただいて心から感謝しています。皆、一つ心でついて行きたいです。(老シスター)

○雨と雷の中、子供3人と夫婦の家族五人で待っていました。三八年前の出来事を周囲の人から聞いていたので、このまま雨なのだろうと思っていました。すると急に晴

れ始め、太陽がまぶしいと感じた頃にパパ様が車で登場。周囲の歓声と興奮はすごいものでした。(立たないように言われていたのに、周囲は皆様立って声援を送っていました。)

普段そんなに声を出さない八歳の長女も大声で歌ったり、お祈りをしたりもう教皇様にくぎづけです。六歳の長男は最初の十字架をしたから眠くなりそのまま入眠。四歳の次女は、始まる前から眠ってしまいました。教会学校で勉強していた教皇様が目の前に現れ、私たちにたくさんの恵みを与えて下さいました。

その帰り、まさかの五島市長と同じバスに乗車することになりました。普段会える方ではないので、「これも教皇様のパワーなのか」とご褒美を頂いた気持ちになりました。

教皇様来崎に向けて準備して下さった神父様、ボランティアの皆様、又雨の中私たちを誘導してくれた皆様、救護班の方々、たくさんの方々の力で教皇様のごミサに与ることができました。感謝の気持ちでいっぱい。ありがとうございます。(戸村)

○今回パパ様のミサに参加させて頂

き、パパ様の穏やかな笑顔を拝見した瞬間、心の中にスーッと風が通り過ぎ胸が熱くなるのを感じました。ミサのために何ヶ月も前から準備に尽力された中村神父様をはじめ船の手配等して頂いた入口さん、救護班スタッフすべての方々に感謝します。ありがとうございました。(A・I)

歌の奉仕を してみませんか!

結婚式や葬儀・告別式にて聖歌を歌う、聖歌隊に参加して下さる方を募集しています。

平日の午前中に時間の都合が付く方であれば、年齢・性別を問わず、歌の好きな方ならどなたでも参加して頂けます。聖歌の練習も行っていますので、イマイチ自信が無いという方でも心配ありません。

結婚の喜びに花を添える歌のプレゼントや、遺族にとって大切な故人との最後の時に、やさしく寄り添う歌声を届ける素敵な歌の奉仕に是非参加して下さい。

現在、松山町の大川君代さんが聖歌隊のお世話役を下さっています。大川さんにお声掛けいただくか、神父様にご相談下さい!

墓地ミサ

十一月三日(日) 桐ヶ丘墓地にて死者のためのミサが執り行われた。ミサに先立って墓地の清掃があり、四十人程の信徒やシスター方が参加して、植樹の剪定や除草作業が一時間程行われた。

その後行われたミサで、金神父様は韓国でのお墓参りの風習などを紹介しながら、「墓掃除をし、花を飾ったりすることは亡くなった方とのつながりを想う、大切にすることが表れであり、亡くなった方が復活する事への思いにつながる。」「死者の月の意味は、亡くなった方への思いもあるが、いつかくる自分の死を思い、その為の準備をする月でもある。」と述べられた。



初聖体式 おめでとう!!



十二月八日(日)二番ミサにて初聖体式が行われた。今年には教皇ミサの影響で、例年より二週間遅れの待降節第二主日となり、馬小屋を前に行われる初聖体式となった。今年初聖体を授かる子供は男子



五名、女子二名の計七名であった。聖体拝領の前に、中村神父様の導きのもとに子供たちと保護者は、神様の前で決意表明を行った。

そして、説教の中で中村神父様は「聖体は命の糧、秘跡そのものである。これからの人生、ご聖体を頂くことでイエス様が人生のパートナーとして、また死後も永遠の命としてともにいて下さる。初めての聖体はその始まりとなる記念すべき事である。」と話された。

その後は、いよいよ聖体拝領。緊張の中にも嬉しそうな様子の子供たちは、大事そうに初めての御聖体をいただいていた。

ミサの最後にお祝いの式が行われ、中村神父様より子供達にメダイと記念品が授与された。神父様は「今日か



「神様を喜ばせるために頑張りたいこと!」

ら教会学校の仲間たちとともに神様のことを学んで立派な信徒になって欲しいと思います。」とお祝いの言葉を述べられた。少子化により、初聖体式を受ける子供たちも減少する一方である事は



◆テレジア
西津綾乃さん

おとっさんおあさんのおてつたいをがんばります。



◆セシリア
中田結さん

わたしはきょうだいとなかよくします。



◆アントニオ
芳澤夏くん

シスターのいうことをきくようにします。



◆カロロ
中村賢人くん

教会の勉強をがんばりたいです。



◆マリウス
中島海翔くん

おいのりをがんばります。



◆マキシミアノ
戸村伊織くん

かぞくともだちをたいせつにします。



◆ミカエル
坪口雄一郎くん

先生のいうことをきくようにします。

編集後記

寂しい限りであるが、こういう時代だからこそ一人ひとりの子供たちとその親御さん方に対し先輩である周りの信徒全体で見守り、時には声をかけて支えていきたいものである。

今年最後の広報誌「こころ」を発行いたしました。今年、元号が平成から令和へと変わり、新しい時代への変化を国民全体で感じる貴重な年となりました。信徒として今年最大の話題は、やはりフランシスコ教皇様の来日に尽きるかと思えます。教皇様は、反核・平和を力強いメッセージとして日本から世界に発信しました。同時に、私たち一人ひとりの心に訴えかけ、アクションを促したのです。ミサに参加できた方も、テレビの中継をご覧になった方もそれぞれが感じた事を語り合い、共同体の力を合わせて、一つでも何かできることをともに行っていきたいと思えます。

暖冬とはいえ、朝晩は冷え込みます。皆様、どうぞお体ご自愛下さり、良い年の瀬と新年を迎えられますようにお祈りいたします。来年も「こころ」をよろしく願っています。

(N・H)